



a 0 7 0 2 0 0 0 0 a

平成30年保育士試験（前期）問題


教 育 原 理

（選択式10問）

指示があるまで開かないこと

解答用紙記入上の注意事項

- 1 解答用紙と受験票の受験番号が同じであるか、カナ氏名・科目名を確認し、誤りがある場合は手を挙げて監督員に申し出ること。
- 2 漢字氏名を必ず記入すること。
- 3 解答用紙は、折り曲げたりメモやチェック等の書き込みをしないこと。
- 4 鉛筆またはシャープペンシル（HB～B）で、濃くはっきりとマークすること。
正しく記入・マークされていない場合は、採点できないことがあります。

（良い例）・・・  （濃くマークすること。はみだしは厳禁）

（悪い例）・・・       

- 5 各問に対し、2つ以上マークした場合は不正解とする。
- 6 訂正する場合は、「消しゴム」であとが残らないように消すこと。

問1 次の文は、「教育基本法」第3条の条文である。(A) ~ (C) にあてはまる語句の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

国民一人一人が、自己の (A) を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる (B) に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる (C) の実現が図られなければならない。

(組み合わせ)

	A	B	C
1	人間性	機会	社会
2	人格	時期	社会
3	人格	機会	環境
4	人間性	時期	環境
5	人格	機会	社会

問2 次のうち、「学校教育法」の条文の一部として誤ったものを一つ選びなさい。

- 1 幼稚園に入園することのできる者は、満3歳から、小学校就学の始期に達するまでの幼児とする。
- 2 幼稚園は、義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児を保育し、幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長することを目的とする。
- 3 幼稚園においては、第22条に規定する目的を実現するための教育を行うほか、幼児期の教育に関する各般の問題につき、保護者及び地域住民その他の関係者からの相談に応じ、必要な情報の提供及び助言を行うなど、家庭及び地域における幼児期の教育の支援に努めるものとする。
- 4 すべて国民は、児童が心身ともに健やかに生まれ、且つ、育成されるよう努めなければならない。
- 5 学校においては、別に法律で定めるところにより、幼児、児童、生徒及び学生並びに職員の健康の保持増進を図るため、健康診断を行い、その他その保健に必要な措置を講じなければならない。

問3 次のA・Bそれぞれの著者として正しい組み合わせを一つ選びなさい。

A 人間は生後1歳になって、真の哺乳類が生まれた時に実現している発育状態に、やっとたどりつく。そうだとすると、この人間がほかのほんとうの哺乳類なみに発達するには、われわれ人間の妊娠期間が現在よりもおよそ1カ年のばされて、約21ヵ月になるはずだろう。

B どの教科でも、知的性格をそのままにたもって、発達のどの段階のどの子どもにも効果的に教えることができるという仮説からはじめることにしよう。これは、教育課程というものを考えるうえで、大胆で、しかも本質的な仮説である。

ア ヘルバルト (Herbart, J.F.)

イ ブルーナー (Bruner, J.S.)

ウ ポルトマン (Portmann, A.)

(組み合わせ)

- | | A | B |
|---|---|---|
| 1 | ア | イ |
| 2 | ア | ウ |
| 3 | イ | ウ |
| 4 | ウ | ア |
| 5 | ウ | イ |

問4 次の文の著者として正しいものを一つ選びなさい。

旧教育は、これを要約すれば、重力の中心が子どもたち以外にあるという一言につき
る。重力の中心が、教師・教科書、その他どこであろうとよいが、とにかく子ども自身
の直接の本能と活動以外のところにある。(中略) いまやわれわれの教育に到来しつつあ
る変革は、重力の中心の移動である。それはコペルニクスによって天体の中心が地球か
ら太陽に移されたときと同様の変革であり革命である。このたびは子どもが太陽となり、
その周囲を教育の諸々のいとなみが回転する。子どもが中心であり、この中心のまわり
に諸々のいとなみが組織される。

- 1 コメニウス (Comenius, J.A.)
- 2 ルソー (Rousseau, J.-J.)
- 3 デューイ (Dewey, J.)
- 4 キルパトリック (Kilpatrick, W.H.)
- 5 フレーベル (Fröbel, F.W.)

問5 次の【Ⅰ群】の記述と【Ⅱ群】の人物を結びつけた場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

【Ⅰ群】

- A 玉川学園の創始者。『全人教育論』を著し、労作教育をとり入れた。
- B 石門心学の創始者。『都鄙問答』を著し、町人への実践哲学を説いた。
- C 能役者、謡曲作家。『風姿花伝』において年齢段階の特質に応じた心や稽古のあり方を説いた。

【Ⅱ群】

- ア 小原國芳
- イ 羽仁もと子
- ウ 世阿弥
- エ 石田梅岩

(組み合わせ)

- | | A | B | C |
|---|---|---|---|
| 1 | ア | ウ | エ |
| 2 | ア | エ | ウ |
| 3 | イ | ア | ウ |
| 4 | イ | ウ | ア |
| 5 | エ | ア | ウ |

問 6 ESD とは、「持続可能な開発のための教育」(Education for Sustainable Development) を表す。次の文は、ESDに関する記述である。適切な記述を○、不適切な記述を×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A 国際連合は、2005 年から 2014 年までを「国連持続可能な開発のための教育の 10 年 (UNDESD)」とし、ユネスコ主導のもと ESD の重要性を提唱した。
- B 持続可能な社会では、一人一人が社会の一員として、人間・社会・環境・経済の共生をめざし、生産・消費や創造・活用のバランス感覚を持つことが求められる。
- C 持続可能な社会を構築するためには、生産活動と消費活動を優先することが重要であり、「生産消費型」社会の形成を目指している。

(組み合わせ)

- | | A | B | C |
|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | ○ |
| 2 | ○ | ○ | × |
| 3 | ○ | × | ○ |
| 4 | × | ○ | × |
| 5 | × | × | ○ |

問7 次の文のうち、「絶対評価」についての記述として適切な記述を○、不適切な記述を×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A 子ども同士を比較して、どちらが優れているかを評価する。
- B 集団に準拠した評価であり、集団の質によって結果が左右される。
- C 個々の学習者が、教育目標のどこまで到達したかを評価する。

(組み合わせ)

	A	B	C
1	○	×	○
2	○	×	×
3	×	○	○
4	×	○	×
5	×	×	○

問8 次の文は、「児童虐待の防止等のための学校、教育委員会等の的確な対応について」(平成22年3月)に関する記述である。適切な記述を○、不適切な記述を×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A 児童虐待の疑いがあるが、確証がない時には、まずは学校として確証を得た上で通告しなければならない。
- B 学校の教職員は、職務上、児童虐待を発見しやすい立場にあることを再確認し、学校生活のみならず、幼児児童生徒の日常生活について十分な観察、注意を払いながら教育活動をする中で児童虐待の早期発見に努める必要がある。
- C 健康診断においては、身体測定、内科検診や歯科検診を始めとする各種の検診や検査が行われることから、それらを通して身体的虐待及び保護者としての監護を著しく怠ること(いわゆるネグレクト)を早期に発見しやすい機会であることに留意すること。

(組み合わせ)

- | | A | B | C |
|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | ○ |
| 2 | ○ | × | ○ |
| 3 | ○ | × | × |
| 4 | × | ○ | ○ |
| 5 | × | × | × |

問9 次の文のうち、中央教育審議会答申「道徳に係る教育課程の改善等について」（平成26年10月）に述べられた内容として、不適切な記述を一つ選びなさい。

- 1 道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行うという道徳教育の基本的な考え方は、今後も引き継ぐべきであると考えられている。
- 2 道徳の授業については、特に小学校高学年や中学校において課題の改善のため、児童生徒の発達段階を踏まえ、内容や指導方法等を適切に見直すことが必要である。
- 3 道徳の時間については、道徳教育の要となって人格全体に関わる道徳性の育成を目指すものであることから、各教科と同様に数値による評価を行うことが望ましい。
- 4 様々な道徳的価値について、自分との関わりも含めて理解し、それに基づいて内省し、多角的に考え、判断することが必要と考えられている。
- 5 学校における道徳教育は、学校のあらゆる教育活動を通じて行われるべきものである。

問10 次の文は、中央教育審議会答申「子どもの体力向上のための総合的な方策について」（平成14年9月）の一部である。（A）・（B）にあてはまる語句の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

できるだけ児童生徒が体を動かす時間を多く確保できるよう、始業前や休み時間を活用して全校で体を動かす時間を設定するなどの工夫が求められる。その際、児童生徒がより運動することを楽しみ、体力の向上に積極的に取り組むことができるようにすることが重要である。

このため、特に幼稚園や小学校の教員については、子どもの発達段階に応じて、（A）を促したり、体を動かす楽しさや喜びを体験させる指導ができるよう、実技研修などを充実することが求められる。（中略）

さらに、小学校では、地域や学校の実情に応じて（B）の配置に積極的に取り組むことが期待される。中学校の保健体育の教員が小学校の体育を指導するなど異なる校種間の連携協力も効果的である。また、地域のスポーツ指導者を特別非常勤講師としてより一層活用することも求められる。

（組み合わせ）

	A	B
1	外遊び	固定遊具
2	外遊び	体育専科教員
3	外遊び	運動施設
4	やる気	固定遊具
5	やる気	体育専科教員